

ホスピタルアートで創る

病院環境の新提案

国立大学法人 山口大学医学部附属病院
(山口県宇部市)

患者を癒し職員の誇りとなる ホスピタルアートの導入

山口大学医学部附属病院は現在、国立大学病院で初となる2回目の病院再開発整備を行っている。新病院建設や、既存病棟のリニューアルに伴い、コトブキシーティング株式会社のグループであるアートプレイス株式会社の支援を受けて、院内にホスピタルアートを導入。患者を癒し、職員が誇りに思う、新たなシンボルとなっている。

重症患者の多い急性期病院で
不安を和らげる空間づくり

山口大学医学部附属病院は、山口県唯一の特定機能病院。病床数は754床、30の診療科と25の診療施設があり、国立大学病院で最初に認可された高度救命救急センターを中心に、山口県の高度救急医療を担っている。

2014年から病院の再開発整備事業に着手し、19年度には新病院（A棟）が完成、23年度には既存病棟（B棟）のリニューアルが完了した。現在は外来エリア（C棟）がリニューアル工事中で、26年度に整備を完了する予定だ。

同院では再整備にあたり、A棟、B棟、C棟すべてに「ホスピタルアート」を取り入れた。再整備にあたって掲げた「Your Health, Our Wish（あなたのために）」のスローガンは、「患者さんを第一に」という、同院の伝統的な指針を改めて打ち出したもので、患者や家族の不安を少しでも和らげる空間をつくるため、

ホスピタルアートを導入した。

21年にはホスピタルアートワーキンググループ（WG）を発足。

鶴田良介・副院長兼先進救急医療センター部長が座長を務め、看護師長、緩和ケアセンターの看護師長、臨床検査技師、総務課や医事課の事務職員、など、多様な職種や部署で構成している。

導入にあたって、アートの専門事業者としてアートプレイスがサポートしている。WGでは同社のアドバイスを受けながら、設置場所やアートの種類を決定し、同社が提案した候補の中から、作者や作品を決定する。



原田美佐副病院長（患者サービス担当）兼看護部長



鶴田良介副病院長兼先進救急医療センター部長（兼ホスピタルアートワーキンググループ座長）

鶴田副病院長は「WGは、多様な角度からの意見を取り入れるため多職種で構成していますが、実際に多数決を取ると8割がた意見が一致していました。患者さんやご家族に寄り添う、優しく温かみのある作品のほか、自然や命などのテーマを感じられるものも多いです。私は経営にも携わっていますので、導入後に手入れが大変だったり、維持費がかかるものは避けるようにしました。これから30年使う病院なので、流行り廃りがなく飽きないという点も意識しました」と話す。

職員も癒され、誇れる 新たな病院のシンボルに

A棟は同大学教育学部出身の渡邊良重氏の作品全50点で彩られている。なかでもエントランスホールの巨大モザイクアートは、山口県出身の詩人、まど・みちお氏の作品をモチーフとし、新病院の顔となっている。小児病棟では、部屋番号をイラストで表示したり、ウォールアートを設置するなど、

子どもたちが楽しい気持ちになれるような空間を演出している。

B棟、C棟には、17人の作家の作品を展示。デジタルアートも取り入れ、365日の変化を楽しめるようなものもある。

導入の効果として、原田美佐副病院長（患者サービス担当）兼看護部長は「以前は無機質な白い壁ばかりだった院内に、統一感のあるアート作品があることで、気持ちや和むのを感じます。不安を抱えている患者さんはもちろん、職員も高い緊張感の中で働いていまして、暖かい色や自然を感じられる作品が目に入るのがとても良いと好評です。実際、現場からは



山口県の花「夏みかんの花」をモチーフに明るい空間を創出（アーティスト：木下友梨香氏）



365日内容が変わるデジタルアート（アーティスト：石井栄一氏）

「検査室などにお連れするとき、患者さんの心がほぐれるのが分かる」という声が出ています。実際に来た看護学生もアートに癒されていたようで、こうした体験が自分たちが働く場所としてのイメージと結びつき、こんな空間で働きたいと思うきっかけになればと期待しています。すっかり当院の顔となっており、看護部パンフレットの表紙にも採用しました」と話す。

鶴田副病院長は「ホスピタルアートの導入を決めた杉野法広前院長は『職員が誇らしいと思えるものをつくりたい』と、コストをかけても良質なものをめざそうと呼びかけていました。それが実現しつつあります。

以前も寄贈された絵画などはありましたが、ホスピタルアートは統一感をもつて空間を作り上げる点で、受ける印象が全く異なります。26年

度には再整備事業が完了し、ハード面が完成します。『人にやさしい病院』の実現のためにはソフト面での取り組みも重要なので、イベントやワークショップ、交流会などを活性化させて、患者満足度と職員満足度の向上に取り組んでいきます」と語る。

ホスピタルアートについての職員の声

- 統一感がありながら、エリアごとにテイストが違い楽しめる
- 入院患者さんが夜間にアートの近くにならずにいる姿を見て、人がいない夜間や休日に患者さんに寄り添うものができたと感じた
- 手術室前や、手術部の休憩室付近にアートがあり、職員の気持ちが和らぐ

国立大学法人 山口大学医学部附属病院

所在地：山口県宇部市南小串1-1-1
TEL：0836-22-2111
病床数：754床

アートプレイス株式会社

所在地：東京都千代田区神田小川町3-16-1-6F
URL：<https://www.artplace.co.jp/>